

千代田町立学校、幼稚園施設の耐震化状況一覧

平成24年4月1日現在

学校名 幼稚園名	棟用途	建築 年月	構造 *①	階数 (階)	面積 (㎡)	区分 *②	第1次 診断 *③		第2次診断 *④				耐震 改修 実施 年度	改修後			耐震 改修 計画 年度	備考
							年度	Is値 *⑤	年度	Is値	CT× SD値 *⑥	q値 *⑦		Is値	CT× SD値	q値		
西小学校	体育館	S47.12	S	1	684	旧基準	-	-	H15	0.42		1.30	H22	0.82		1.60		
	北校舎	S54.8	R	3	2,561	旧基準	-	-	H18	0.51	0.66		H20	0.79	0.82			
	南校舎	S60.3	R	3	2,402	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
東小学校	体育館	S47.12	S	1	649	旧基準	-	-	H15	0.15		0.47	H22	0.82		1.73		
	北校舎	S49.3	R	2	619	旧基準	-	-	H18	0.73	0.31							
	北校舎	S50.3	R	2	884	旧基準	-	-	H18	0.73	0.31							
	南校舎	S59.2	R	2	1,712	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中学校	普通教室棟	S42.3	R	2	1,058	旧基準	-	-	H14	0.39	0.41		H16	0.82	0.80			
	普通教室棟	S43.3	R	2	769	旧基準	-	-	H14	0.39	0.41		H16	0.82	0.80			
	特別教室棟	S43.3	R	3	1,636	旧基準	-	-	H14	0.50	0.56		H16	0.72	0.77			
	特別教室(技)	S43.3	S	1	389	旧基準	-	-	H14	0.29		1.31	H21	1.70		2.06		
	体育館	S44.3	S	1	733	旧基準	-	-	H14	0.25		0.78	H21	0.84		2.60		
	武道館	H22.2	S	1	564	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
東幼稚園	園舎	H1.3	R	1	524	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
西幼稚園	園舎	H24.2	S	2	975	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		H23年度 新築

≪用語の解説≫

*①「構造」欄の「R」は鉄筋コンクリート造を、「S」は鉄骨造を、「W」は木造をいいます。

*②「区分」欄の「旧基準」は建築基準法の改正(昭和56年)前に建築されたものをいい、「新基準」は建築基準法の改正後の現行の耐震基準で建築されたものをいいます。「新基準」で建築されたものは、耐震性がありますので、耐震診断及び耐震改修の必要は、ありません。

現行の建築基準法の想定する耐震性能

中地震時(震度5強程度) 建物に損傷が発生しないようにする。

大地震時(震度6強～7程度) 建物に部分的な損傷は生じるものの倒壊などの大きな損傷を防ぎ人命が失われないようにする。

*③「第1次診断」とは、個別の建物の耐震性能を柱や壁の量から簡略に評価する診断方法をいいます。

*④「第2次診断」とは、個別の建物の耐震性能を柱と壁の強度とじん性(ねばり強さ)を考慮し部材分類ごとに算定する詳細な診断方法を言います。

*⑤「Is値」(構造耐震指標)とは耐震診断により、建物の耐震性能を示す指標で、Is値0.6以上あれば耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省では、学校は0.7以上に補強するように求めています。

0.3未満 大規模地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

0.3以上0.6未満 大規模地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

0.6以上 大規模地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※大規模地震は、震度6強程度を想定している。

*⑥「CT×SD値」とは、鉄筋コンクリート造の建物にある程度の強度を確保する目的の建物の形状(SD)や累積強度(CT)の指標に関する判定基準です。Is値が高くてこの値が低い場合は安全としない目安です。CT×SD値が0.3以下では、Is値を満足しても安全としません。

*⑦「q値」とは、鉄骨造の建物の保有水平耐力に係る指標で、1.0以上であれば倒壊や崩壊の危険性が低く、1.0未満では、危険性があるとされています。保有水平耐力とは、建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さを言い、各階の柱、耐力壁及び筋かいが負担する水平せん断力の和として求められる値をいいます。